

※キャラクター

1 ラミア  
2 イライザ



- 共通台本 -

cha0001 イライザ

「(国家特別捜査官エージェント・ラミア、そして同エージェント・シャドウ。二人は潜入捜査を得意とする超A級の男女ペア捜査官である)」

cha0002 イライザ

「(二人は幾つもの犯罪組織に潜入し、社会の闇に潜む、数々の凶悪犯を倒し、その組織を壊滅させてきた。先日の麻薬密輸組織の一斉検挙にも、二人の活躍があった)」

cha0003 イライザ

「(恋人を装い、組織に潜入したラミアとシャドウ。艶めかしいラミアのリードによって、二人は本当の恋人以上に濃密な関係を、麻薬組織のメンバーに見せつけ、その目を欺くことに成功したのだ)」

cha0004 イライザ

「(人妻でもあるラミアは自らの魅力を十分に自覚していた。その熟れた妖艶さを武器にして、年下のシャドウを夢中にさせ、自らの魅力の虜として、見事に任務を果たしてみせた)」

cha0005 イライザ

「(日に日に、名声の高まるラミア・シャドウペア。ふたりの次なる秘密指令は、国際犯罪組織ブラッディ・シャークへの潜入捜査だ)」

cha0006 イライザ

「(情勢不安定な国家やゲリラの幹部に接近し、麻薬、人身売買、そして海賊行為と様々な凶悪犯罪を繰り返す、ブラッディ・シャーク)」

cha0007 イライザ

「(組織の壊滅は各国の捜査機関の悲願であった。そこで、ラミア・シャドウペアに白羽の矢が立ったのだった)」

cha0001 ラミア

「行ってくるわね、あなた……今回の出張は少し長くなるかも……うん、大丈夫。海外の仕事には慣れてるもの……うん、そうよ。だから、心配しないで」

cha0002 ラミア

「危険なことはいらないわよ……本当よ……もう、信じてよ……」

cha0003 ラミア

「……んもう、じゃあ、行ってきますのキス、するわね……ほら、こっちに顔をもっと近づけて、んふふふッ♪ んちゅ、ちゅぱッ……はふ……あなた……愛してるわよ……」

cha0004 ラミア

「(……公務員か……確かに嘘はついていないけれど……潜入捜査のスパイも殺し屋も、国家に属していれば公務員よね……普通の仕事をしている夫には、組織の汚れた仕事のことなんて、絶対に話せない……)」

cha0005 ラミア

「(でも……愛するあの人に隠れて、秘密任務をこなすのは、もう限界かもしれないわね……。そろそろ身の引き時かしら……危険な任務も、これで最後にして……私も、あの人が子供が欲しいわね……)」

cha0006 ラミア

「(さあ、コードネーム・ラミア——潜入捜査官として、最後で、最大の仕事よ……必ず成功させて、帰ってくるから……待っていてね、あなた……)」

cha0008 イライザ

「(ラミアとシャドウ。二人はブラッディ・シャークへ潜入することに成功した——はずだった……だが、長年の相棒であるシャドウは、ラミアを裏切ったのだ)」

cha0007 ラミア

「うそ、よね……シャドウ……まさか、あなたが……ねえ、その銃をしまつて……お願い……軽い冗談なのよね……」

cha0008 ラミア

「ねえつてば！ 黙ってないで、なんとか言つてよ、シャドウっ……！」

cha0009 イライザ

「吠えるな、コードネーム・ラミア。んふふ、それがお前の名前よねえ。ぜくんぶ、シヤドウから、素性は聞いている。どこの国家に属し、どういうルートで入ってきたかもね」

cha0009 ラミア

「あ、あなたは……！？」

cha0010 イライザ

「あたしは看守長イライザ。お前は、シャドウに売られたのよ。シャドウの持つ情報と、ラミア、お前の身柄。この二つを手土産に、シャドウは我ら組織へ寝返つたつてわけ」

cha0011 イライザ

「お前は今から、あたしの管理する組織の監獄に入るのよ。そこではね、女にたつぷりと淫らな調教を施しているの。そして仕上がった女は商品として、世界中の金持ちどもに売りさばく」

cha0012 イライザ

「お前も高く売れるように、しっかりと調教を施してあげるわね」

cha0013 イライザ

「調教は、このシャドウが担当する。本人がそう申し出たのよ。我が組織に忠誠を誓う証しに、お前を快樂調教して立派な性奴隷に仕立てあげたいってね」

cha0014 イライザ

「シヤドウも、我が組織の上層部の信頼を早く得たいみたいね。んふふ、気持ちちはわかるわ。だから私も彼を調教担当に推薦してあげたのよ」

cha0015 イライザ

「同僚の若い男に調教されるのは、どんな気持ちなの、ラミア？　もしかして期待であそこを濡らしちゃったりしてるのかしら？」

cha0010 ラミア

「……非道な……それがブラッディ・シャークのやり方……でも、私はそんな調教に絶対屈しない……国家特別捜査官のプライドにかけても」

cha0016 イライザ

「いくらでも吠えるのは自由よ。さて、シャドウ、お前の調教の手並み、しっかり見せてもらう。組織への忠誠が本物かどうかもねえ、んふふふ……」

cha0011 ラミア 「……んんッ……足が鎖で繋がれて、逃げられない……まさかシャドウが……裏切るな

んて……」

cha0012 ラミア 「これが、最後の任務のつもりだったのに……あなた……ごめんなさい……」

cha0013 ラミア 「（……でも、あのシャドウがどうして……）」

cha0014 ラミア 「誰……あなたは——シャドウ！？ どうして、こんな真似をしたの！！ お金、それとも地位。何か弱みを握られているの？」

cha0015 ラミア 「こんな真似されて、落ち着けるわけじゃない！ 何か言つてよ、シャドウ……」  
6

cha0016 ラミア 「え、どういふこと、それは？ 私や捜査機関を裏切つてはいないのね？」

cha0017 ラミア 「……ええ、わかったわ、あなたを信頼すればいいのね。もちろんあなたの考えは理解しているつもりよ。組織の信頼を得るために、裏切りは見せかけということよね。それなら、私も協力する」

cha0018 ラミア 「いいのよ、謝らなくても。敵を欺くには、まず味方から。事情はわかるわよ。それで……私はどんな協力をすればいいの……覚悟は出来ているから、さあ、話して頂戴……」  
…」

cha0019 ラミア

「あの女、イライザの話……本当だったのね。シャドウが私の調教担当になってしまうなんて……でも、任務だもの。仕方ないわよね。ブラッディ・シャーク殲滅のため、この身をあなたに捧げる覚悟よ……」

cha0020 ラミア

「ふふ、私には遠慮せずに、思いきり調教してもらっていいのよ……私が信用できないの？ そんな快樂調教に屈して、口を割るようなヤワな女ではないわよ」

cha0021 ラミア

「大丈夫よ……結婚前には情報を取るために、世界中の有力者や政治家に接近したもので。裏の世界で生きるものの宿命……逆に私をきっちり調教できるかどうかの心配をしたほうがいいわよ？ んふふッ」

cha0022 ラミア

「……ねえ、あなたは調教担当の、私の様子を見に来たことになってるのよね。じゃあ、何もせずに帰ってしまうのは、変よね。そう思わない？」

7

cha0023 ラミア

「私の気持ちは整理できているから、今から始めてもらってもいいわよ？ 何、怪訝な顔してるの？ もちろん私への調教のことよ。密室に囚われた女のところに顔を出して、何もしないほうがおかしいわよね？」

cha0024 ラミア

「ほら、あなたが信頼を勝ち得るために、私の身体を好き放題に弄んでおいたほうが、都合がいいでしょう。いいのよ、任務で慣れているもの……さあ、お願い——」

cha0025 ラミア

「……何、いきなり、そう来るの……スーツを下におろされてしまったら、ああっ……下には何も身に着けていないのに……でもいいわ、さっさとやって……それとも私を裸にする度胸がないの？」

cha0026 ラミア

「……あふ……私の裸、全部見られて……本当にいやらしい目ね……スーツの中に手を入れて、胸、揉まないで……んッ、シャドウ、容赦ないのね……胸をまさぐってケダモノみたい。それなら敵も騙せそうね」

cha0027 ラミア

「(……これも任務なの……必ず成功させて、帰るから……今は許して、あなた)」

cha0028 ラミア

「んッ、んんッ、胸、もつともいいわよ、それぐらいじゃ感じないわよ。くす、あなたのほうが興奮して、あそこを大きくしてるじゃない？ いいわ、命令して。ペニスに奉仕しろって、調教担当なら当然よね……」

cha0029 ラミア

「ええ、わかったわ……胸でペニスを愛でればいいのね……あなたは立ったままでいて……足は鎖で繋がれているけれど、私の上半身も、両手も自由よ。パイズリぐらいは、簡単にできるわよ……」

8

cha0030 ラミア

「……さあ、シャドウ、楽にして。あなたのペニスをズボンの上から、撫でていくわね。んふ、ズボンの上からでも、わかってしまうぐらいカチカチね……動かないで……ズボンから、ペニスを取りだして……」

cha0031 ラミア

「んしよ、んしよ、つと……あんっ！ いきなり飛びだしてきてッ……ああ、凄く立派。太くて、長くて、たくましいペニス……あの人のモノより、すごい……んふふ、なんでもないのよ、さあ、始めるわね」

cha0032 ラミア

「じゃあ、指先を絡めるようにして、ペニスの先端から、根元まで撫であげるわね。んんッ、あん……ああッ……硬くなった先っぽがヒクついて……ああ、本当に、いやらしい……」



cha0033 ラミア

「もつと指先を亀頭に絡めて、扱きあげるわね。エラの張ったところが、特に感じるのよね。んふ、こうやって、ほら指で輪っかを作って、いやらしく扱いてあげる。んふ、ビクって今、反応して、感じてくれるのね」

cha0034 ラミア

「どうなの？ シヤドウ、カウパーがあふれてきてるわね。もう出したくって、たまらないんじゃないの、んふふ、でも、もう少し我慢よ、ほら、もつと、しこしこ扱いて、してあげるわね、くすッ」

cha0035 ラミア

「……んふ、手だけじゃ物足りないのね……いいわよ、胸でもしてあげる。スーツを、もう少し下ろして、んしよ、んしよっと。んふう、お腹の辺りまで下げるわね……はあはあ……何よ、じっと見すぎよシヤドウ……」

cha0036 ラミア

「ほら、乳房を、んんッ、出すわよ……どうしたの胸をじっと見て、恥ずかしいわよ……スーツの中に押しこめられていたけれど、出すと大きいでしょう」

9

cha0037 ラミア

「このむちむちに張った両方の生乳房で、あなたのペニスを、こうやって、んしよ、んしよっと、挟みこむわね……」

cha0038 ラミア

「ほら、どうかしら、吸いつくような、おっぱいのむにむに感を、ああ感じてちようだい？」

cha0039 ラミア

「若いペニスは違うわね、硬くて、それも綺麗で、胸に挟んで、その震えを感じてるだけで、興奮してきちゃう。こうやってペニス全体におっぱいの柔らかさを、すりすりって、押しつけてあげる、んふうッ」

cha0040 ラミア

「ほら、柔らかい乳房ですりすりされるの、どうかしら？ んふ、シャドウ、何か言いなさいよ。黙ってばかりで、そんなにペニスをパイズリされるのが、気持ちいいのかしら？ ほらもっと、すりすりしてあげる♪」

cha0041 ラミア

「んふ、あなたのペニスビクビク震えて、もう出したい、出したいって、言ってるわね。でも、まだ、だめ。もう少しよ。男のヒトが早すぎると、嫌われちゃうわよ、んふッ、ほら、私の生乳房、もっと感じて♪」

cha0042 ラミア

「ほらほらほら、乳房をもっと激しく絡めて、根元から先っぱまでを、いっぱいしこしこ、しこしこしこッ、抜いてあげるわね。おねだり汁が溢れて、すっこい量ね、んふふふ」

cha0043 ラミア

「カウパーだけじゃ寂しいでしょうから、んじめる、じめる、れろろろッ、はふッ、唾液を沢山垂らして……たつぷりと亀頭にまぶしてから、これをローションみたいに、おっぱいでにゆるにゆるしてあげる」

cha0044 ラミア

「ほら、両方の乳房がおちんぼに絡んで、にゆるにゆるしてて、まるで、おまんこみたいに感じちゃうでしょ？ んふ、ほらもっと私のおっぱいおまんこを感じて、いっぱいにゆるにゆるして、刺激してあげるわね」

cha0045 ラミア

「もう出したいのよね、腰まで使っちゃって、私のおっぱいの谷間で、しこしこして、んふふ、がつつきすぎよ。もっと理性をしっかり持ちなさい。捜査官なのに、オチンポの快楽に負けちゃだめでしょう？」

cha0046 ラミア

「んふふッ、ほら、今日はここまでよ。射精はなしね。出して、すっきりしたら、次から私を調教できないでしょう。ここまで奉仕したのも、あなたにもっと欲情してもらって、調教に本腰を入れてもらうためよ……」

cha0047 ラミア

「(そうよ……私がシャドウのペニスを一生懸命パイズリしたのは任務のため、彼に思い切り、私を調教させるため……もっと私を求めて貰わないと思ったから……)」

cha0048 ラミア

「(だって、任務のためでなければ、こんな淫らなことはできない……前のシャドウと恋人を演じたときと一緒よ。今度は調教する側とされる側、任務に変わりはないもの)」

cha0049 ラミア

「どうしたの、じっとこっちを見て。もうパイズリは終わりよ……ねえ、あッ……パイズリの代わりに、あんッ……シャドウ、どうしたの、んっ、強引に唇を、んふっ…奪うなんて、だめ……」

cha0050 ラミア

「キスは、んうッ……調教と関係ない……はふ……んちゅッ、ちゅ……あ……んふうう……ああ、情熱的なキスね、さすがはシャドウ……あなたの気持ちは充分伝わってきたけれど……その気持ちには答えられないのよ」

cha0051 ラミア

「……んん、んふうッ……シャドウ、もう行って……長く一緒にいると疑われてしまうわよ……次に会った時、私はあなたに調教される捕虜よ……それを忘れないで……」

cha0052 ラミア

「任務のため、お互いに頑張りましょう……」

cha0053 ラミア

「……来たのね……調教は二人？ シャドウだけじゃないの……イライザ、あなたも一緒なの？」

cha0017 イライザ

「あたしがいては、都合が悪いの？ んふふッ。すでに快樂調教をした性奴隷一匹の注文が入っているのよ。だからあたしも一緒に入って、お前をすぐにでも、使い物になる商品へと仕立てないといけないの。わかる？」

cha0018 イライザ

「さあ、調教開始よ。シャドウ、まずはこの生意気な女の胸から、仕上げましょうか？ メロンでも仕込んだみたいにおおきな胸を快樂漬けにするというのは、どうかしら？ さ、やりなッ」

cha0054 ラミア

「シャドウ、この裏切り者ッ……うう、胸を揉まれたぐらいで、感じたりしないわよ……つくう、強く揉まないで……直接、強く揉まれると、痛いッ……痛いのッ、んううッ……」

cha0019 イライザ

「ふふん、ぴっちりしたスーツから、露出した生白い乳房。んふふッ、本当、絵になるわねえ、ラミア」

cha0020 イライザ

「それに痛いだけなの？ もう感じてきてるんじゃないの？ お前の食事に仕込んだ感度の上がる薬が、そろそろ効いてくるころよねえ、んふふッ」

cha0055 ラミア

「……そんな、薬だなんて聞いてない……それにいくら薬だって、簡単に感じさせられたりしないわよ。くふッ、だから胸を乱暴に扱わないで……んんう、この私が簡単に屈したりすると思うの?」

cha0021 イライザ

「だいぶ感度が上がってきたみたいね。顔に出てるのよ、ラミア。ヒトが一番弱いと言われている快楽で責め堕としてあげる。さあ、もっと激しくやって、シヤドウ!」

cha0056 ラミア

「い、いやッ、そこは触らないで……乳首ッ、引っ張るのも、んんう、つねるのも、んいい……ッ……ああ、あふッ、めちやくちやにされたら……だんだん変になってきて……」

cha0057 ラミア

「ひい……あひ……乳首は、本当にもう……んんッ……んんッ……痛いけど、んんうッ、痛いけどッ、くふッ、変な声、出てしまっ……んんう……」

cha0058 ラミア

「こんな……薬のせいで、頭がぼうつとしてきて……ううッ……快楽に吞まれそう……はあはあはあッ……おっぱい全体が、はひ、んんう、なんだか敏感になって、うう、もう、負けてしまいそう……」

cha0059 ラミア

「(シヤドウの手でおっぱいの形、こんなにいやらしく歪められてしまっ……ああ、胸がどんどん感じやすく、変えられてしまっ……)」

cha0060 ラミア

「ああああ、む、胸ッ、んひいい……感じすぎて、あひッ、あひいい……あふう、あふううッ……!」

cha0061 ラミア

「(また乳首ッ、いっぱい引っ張られて……いや、乳首を限界まで引っ張った手を離されたら、胸、もっと感じやすくなって……)」

cha0022 イライザ

「んふ、乳首の感度開発も進んできたわね。さあ、もっと胸の快楽調教を進めましょ  
う。さらに濃度の高い薬液を、胸に注いであげるわね。いったい、どうなるのかしら、  
んふふ。さあ、シャドウ、やって！」

cha0062 ラミア

「う……なによシャドウ、それは……いやああッ、乳首に注射しないでッ、んううう  
ッ、痛い……んうーッ、ああああ、ああッ」

cha0063 ラミア

「おっぱいの中に、液が、ああッ、入ってきて……んうう、うう、ああああ……ああ  
ッ、い、いやあッ、胸が変になって……ああああッ、どうしてこんなに感じちゃうの…  
…く、くううッ……」

cha0064 ラミア

「んふう、ひ、左だけでなく……あ、あああ、中に液が入ってきて、んいひい……  
右もなのッ……組織の言いなりになるなんて、ひどいわよ。あなたエージェントとし  
ての誇りを忘れたの、あああッ、あああッ」

cha0065 ラミア

「乳首感じて、んひいひい……いや、これ、どうしてなの……ああああ……」

cha0066 ラミア

「まだ、するのシャドウ。に、二本目も。ああ、これ以上されたら、私耐えられない…  
…ああ……あひいひい……んんッ、んひいッ、これ以上、おっぱい感じるようにされた  
ら、私……私ッ……ううう……」

cha0067 ラミア

「乳首、んいひい、か、感じて、頭真っ白になって、ううう……ああ、先っぽがまだ勃起  
して、んううッ、中から乳首の芯が出てきて……くふッ、ううッ、んうう、んふうう…  
…くふうう……ッ」

cha0068 ラミア

「はあ、はあッ……う、嘘。敏感になって、はひ、ちよつと動くだけでびりびりしてるのに、今、胸を揉まれたらッ……んう……んう、んふうう……いふッ……んくふうう……んうッ」

cha0069 ラミア

「……ああ、あふうう……胸、そつと触られてるだけで、んひ、感じてしまつて……」  
「れが薬の力なの……くふッ、んくふううッ……気を抜いたらイってしまいそう……くふッ……ああ、あはああ……あふ……あふうう」

cha0070 ラミア

「(胸の責めが優しくなつて……ああ、シヤドウ、氣遣つてくれてるのね……助かったわね……これが続けられたら、さすがの私でも、耐えきれるかどうか……わからないもの……でも、まだ負けないわよ……)」

cha0073 イライザ

「シヤドウ、責めの手が緩んでるわよ。ねえ、本気でやつてる？ 仲間への気持ちが残ってるんじゃないの。いいわ、あなたは少し脇へのいていなさい。本気の責めの手本を、このあたしが見せてあげる」

// 【 SE 】 鞭音

cha0071 ラミア

「んひいい、あひいい、痛いッ……鞭で胸を叩いたら、いひいい、だめ、だめッ……あひい……んひッ、んううッ、そんなことされたらッ……あひ……んんッ、いく……ッ……刺激凄すぎて、あふうう……」

cha0072 ラミア

「やめろッ、胸がおかひく、なつてしまうッ、ああ、感じすぎて、鞭で叩かれてのにくひいい、よくなつてしまいうう……あはああッ、いくッ、鞭で叩かれて、ひいい……いくーッ！ ああッ！」

cha0024 イライザ

「あははッ、ぶるぶるおっぱいを卑猥に震わせて、はしたなく胸イキしたのね。優秀な捜査官殿も、今や、乳首でイクだけのただのメスね。さあ、シヤドウ続きよ。もっと薬が効いたら、さらに面白いものが見れるわね」

cha0073 ラミア

「はあ、はあッ……面白いモノ？ あ、んはああ、まだいった余韻で感じやすくなってるのに、おっぱい揉まないで……ああ、本当に耐えられない、頭がおかしくなってしまう……」

cha0074 ラミア

「あふ、あふうう、ああ、注射で大きくなった胸ッ……揉まれたら、またいつひやうう、あはああ、根元から、んうう、搾るように、んひいい、揉まれて、ああ、どうして……乳首がまた大きくなって……」

cha0075 ラミア

「はひいい、エッチに乳首勃起して、んひいい、こんなに大きくなるなんて……ああ、おかしい……ううッ……あふうう、それに……おっぱいが張って、重くて、んうう、苦しい、胸の先が切ないの……あふうう」

cha0076 ラミア

「んうう、あはああ、おっぱいの奥から、変なのが上がってきて、ああ、おっぱい根元から搾られたら、ああ、いや、いやああ、あくう……おっぱいから、出る、熱いのが、出てしまうッ、あーッ！」

cha0077 ラミア

「あひいい、いや、白いのが、こ、これって母乳ッ……ああ、私、胸で感じすぎて、んひいい、おっぱい射乳ッ、しひやって……乳首の先がいっぱい開いて、あはああ……あふ……シルクが溢れて……止まらない……」



cha0078 ラミア

「ああ、シャドウ、胸搾らないで……感じすぎて、あんツ、またあ、シャドウの顔におっぱいミルクうう、ぶっ掛けツ、しひやううーツ、ああツ……ああ、くふツ……ああ、ミルク、出てしまう……あーツ!!」

cha0079 ラミア

「……はあ、はあ、はあツ、いっぱい、母乳が出ってしまった……ああ……シャドウの前ではしたなくおっぱい射精ツ、してしまつて……夫の前でも、ミルクのお漏らしなんて、したことないのに……」

cha0080 ラミア

「……ああああ、はあはあはあ……あふう、ああああ……」

cha0025 イライザ

「ラミア、たっぷりミルクが出たみたいでよかったじゃない？ 次回はただ快樂だけではなく、面白い趣向を凝らして、お前を恥ずかしめてあげるわね。んふふふふふふッ」

cha0081 ラミア

「（ああ、身体がいつも火照ってしまつて。自分のものではないみたい。夫のある身でこんな、いけないことなのに。若い同僚の、シャドウの肉体を欲しがっているわけじゃないのよ……あ、誰か来た……）」

cha0082 ラミア

「シャドウ……来てくれるの、待ってたの……私、身体の奥から溢れだす快楽に吞まれてしまいそう……気のせいだと、いいけど……」

cha0083 ラミア

「そう……よね……あの程度のプレイでイライザが納得するわけないもの……これから、もっと調教が激しくなるのよね。その覚悟も出来ている……もちろん任務のためだもの、身体を開く覚悟はあるわ」

cha0084 ラミア

「なんだか不安そうな顔ね、シャドウ。いいわ、私の覚悟を今、示してみせましょうか？」

cha0085 ラミア

「ううやって全裸で、足を鎖に繋がれているのも、ほらッ、あなたの前で大股を開いて……はああ、恥ずかし……こうやって、M字開脚の姿勢になることもできるのよ……任務のためなら……ね……」

cha0086 ラミア

「んふふ、何よ……じろじろ見られたら、ああ、私も気持ちが昂ぶってきちゃう。任務で太った金持ちにみられるよりも、ああ、シャドウ、あなたに見られる方が、感じるの……ッ……」

cha0087 ラミア

「あなたのペニスも大きくなって……準備はできているようね……いい……わよ……あなたの欲望を私にぶつけてもらっても……敵を欺くためには、私は肉便器のように使われているほうが都合よね……」

cha0088 ラミア

「んんツ……んふううツ、あなたのペニスが、あそこに入ってきて、んふううツ……奥へゆつくりと進んで、私の中をぐいいって押し詰めながら、満たしていくのが、わかるの……ああ、本当に大きなペニスね……」

cha0089 ラミア

「あふうう……久しぶりの充実感……んうう、奥まで、いっぱい満たされて……それに、あふうう、身体に投与されつづけている薬のせいかしら……いつも以上に、あそこがきゆうきゆうって震えて……ああああ……」

cha0090 ラミア

「(子宮が甘く締めつけられて……夫以外のモノが欲しくなってしまった………違う、私はこんなふしだら女ではないのよ……)」

cha0091 ラミア

「お願い、シャドウ。動いて……夫もいて、私は本当はこんな淫乱な女じゃないの……でも、こんな気分になってしまうのは、きっと薬とあなたの調教のせいよ……もうだめ、我慢できないの……」

cha0092 ラミア

「あなたにたくさん調教されて、こんなエッチな身体になってしまったの……動いて、お願いよ……シャドウの大きなモノで、私の中をかき混ぜて、めちゃくちゃにしてほしいの……んふ……ああ、いい、もっとよ……」

cha0093 ラミア

「……ああ、ああああ……いい、いいの。気持ちいい……たくましいもので、おまんこの奥までかき混ぜられて、ああッ、感じてしまいうう……シャドウのチンポで、おまんこの奥まで、感じてしまってる……」

cha0094 ラミア

「もっと、激しく……して……あはああ……あなたのチンポで、おまんこのヒダヒダ、擦って、いっぱい感じさせて……ああ、あーッ、感じすぎて喘ぎ声、止まらなくなってしまう……あはああーッ……」

cha0095 ラミア

「(すごい……シヤドウのチンポ、あの人と全然、違う。硬くって、勢いも激しくて、奥までガンガン当たって……ああッ、私、若さに圧倒されてしまってる……)」

cha0096 ラミア

「あひ、あひいい……ああ、凄い、あなたのセックス、凄いいい、奥までいっぱいじゅぼじゅぼされて、あふう、ああ、あはあああ、あそこが濡れて、あはああ、お汁が止まらないの……あふう……」

cha0097 ラミア

「あん、あんッ、気持ちいい、いいッ、こんな、ああ、乱れちゃうなんて、恥ずかしいいい、あはあああ、これも、あふう、感じてしまう薬に犯されてるから……快樂調教されてるせいだから……あはああ……ああ……」

cha0098 ラミア

「ああッ、シヤドウ……そんな目で見ないで、んううッ、おふうう、ああ、違うから、私、本当はこんなにセックスで感じたりしないの……違うの、あはああ、ねえ……意地悪言わないで……お願い……」

cha0099 ラミア

「私は調教されてなければ、あふうう、こんなに感じたりしないの……若い男に悶えるような、そんな女じゃないの、くふううッ、おまんこの奥ッ、ガン突きされて、いひい、あひいいッ、あくうッ……ああっ……」

cha0100 ラミア

「沢山ピストンされて、奥まで責められて、んううッ、あふう、あくふう、子宮まで感じてしまう……ああ、あんんッ、あふうう……あふ、あくふうう、んくッ、子宮が震えて、頭が真っ白で、何も考えられない……!」

cha0101 ラミア

「んぐう、ひうう、ひううッ……おちんぼの先が、赤ちゃんの入り口にがんがん当たって、んひいい、あひ……そんなに、いっぱいおまんこの奥、揺さぶらてしまったら、ああッ、いく、いくうう……んううッ!」

cha0102 ラミア

「ひぎッ、ひぎいい、あ……ああ……あなたのペニスが、子宮の入り口に刺さって……あ、ああああ、いくう、いくううッ……! も、もう……ッ……子宮でいつてしまう……あ……ああ、ああッ……あはああッ!」

cha0103 ラミア

「はあ、はあ、はあッ……な、何、あなたのペニスが震えて……ああ、だ、出してッ……な、中に精液いっぱい出してっ、んひいいッ、子宮の奥にッ、熱々のザーメンっ、ぶっかけてえ——ッ!」

21

cha0104 ラミア

「……あ、ああッ……子宮の中に、直接、んうううう、当たってッ! あはああッ、子供が出来ちゃう……シヤドウとの赤ちゃんできひやううッ……あはああああ……」

cha0105 ラミア

「……ああ、私、あなたの精液、いっぱい受けとめてしまつて……人妻なのに……はふ、はふうう……夫以外のペニスでイカされて……中出しまで……されてしまった……」

cha0106 ラミア

「(……シヤドウとの不倫セックス気持ち良すぎて……若い肉体も、立派なペニスも、熱いザーメンも、もつと感じていたい……身体の疼きが収まらない……)」

cha0107 ラミア

「……あなたに中で出されて……その妊娠……してしまうかもしれないけれど……でも……敵を欺くためには、これぐらいしたほうが、よかったのよね……」

cha0108 ラミア

「ああ、気にしないで……ああ、あなただけのせいじゃ、ないわ……」

cha0109 ラミア

「これから、私はもっとあなたに手ひどく調教されちゃうのよ……今ぐらいは、恋人気分でいさせてちょうだい……ねえ、シャドウ、今度は私、どんな調教をされてしまうの？」

cha0110 ラミア

「——ああ、今からされることを思うだけで、身体が火照ってきてしまう……」

cha0111 ラミア

「……うう、今日はどうするの？ これだけ感度を上げる薬を、身体に入れておいて……いくら快楽漬けにされても、心まではあなたたちに売り渡すつもりはないわよ……ああ、はあ、はあッ……」

cha0026 イライザ

「まだ、満足しないのラミア？ 身体の感度をあげるだけじゃあ、ダメみたいね。ほら、今日はこれを呑みなさい！」

cha0112 ラミア

「……うう、いやッ……ああ、んぐうう、けほ、けほッ……シャドウ……助け……て……げほッ……」

cha0027 イライザ

「シャドウは、もうお前の味方じゃないのよ。忘れたの？ それとも裏で、繋がってるとか」

cha0028 イライザ

「んふふふ、たっぷり飲んだわね……さあ、ここからはシャドウにいたぶって、貰おうかしら」

cha0113 ラミア

「ううッ……また裏切り者に、好き勝手されるのッ……悔しいッ……ああ、あぐううッ……何よ、両手を頭の上で、鎖で縛られて、あううう……ッ……全裸で、吊られるなんて……こんな格好」

cha0114 ラミア

「……うう、くそ、くそッ……じたばた、もがいても……無駄ってわけなの……うう、好きにしないで……あああ、だめ、おまんこは触れられるだけで、んひッ、感度が上がって、あひ、いひいい……あああッ」

cha0115 ラミア

「意思とは違って、勝手に感じて……いやらしいお汁を、お漏らししひやうう、あふうう、ああ、おねだり液が止まらなくて……こんな、裏切りものにされるがままなんて……あひいい、んんッ……」

cha0116 ラミア

「……な、なに？ バイブ……なの……そんな大きいの、入るわけが、ああ、あはあああ、んうううッ、ひい、ひいい、はふーッ、中の、奥うう、いっぱい、広がって、ああ、もうやめて……」

cha0117 ラミア

「シヤドウ、あなたのこと、裏切り者なんて言わないから、んひいい、ああ……うう、苦しい、おまんこ……極太バイブ、突っ込まれて、ひい……ひいい、裂けそう……うう……ッ……」

cha0118 ラミア

「あひ……あひッ……もう、許して……あ、ああ……何よ、まだバイブ、あ、あるの……冗談……よね……んひ……あ……ひやううッ！ 今度はお尻の孔に、あ……あぐうう、もう、充分で——ああおおおッ！」

cha0119 ラミア

「おまんこだけでも、おふうう、苦しいのに……お尻まで、ああおお、シヤドウッ、ひどい、ひどすぎッ——ああお、おほおお、おお、んおおおお、お尻の穴、広がって、んおおッ、入って、おうううッ！」

cha0120 ラミア

「……くふ、くふううッ……お尻も、おまんこも、バイブでいっぱい……あぐう……苦しすぎて、もう限界なの……ああ……う……あ……何、シヤドウ……そ、それ、もしかしてバイブのスイッチ……」

cha0029 イライザ

「ふふッ、わかっているわね、シヤドウ。メス犬の下半身を舐けてやりなさい」



cha0121 ラミア

「そっ、それだけは、ダメ……んひいーッ、らめ、らめえええ……あくうううーッ、ああおお、おまんこも、お尻も、おううううッ……一緒に、ぶるぶるしてええ、ああーッ、んひいーッ!!」

cha0122 ラミア

「はひ……はひ……んいひ……止めて……バイブ、んうう、止めてええ……即イキしひやって……まだ、お尻も、おまんこも震えて、んひいひ、いうううッ……イってるのに、また、ああ、イグううッ!」

cha0123 ラミア

「シヤドウ……助けて、いぐ、いぐうう、ああおおお、お尻でも、おまんこでも、んおお、おほおッ……また、いぐううッ、ああおおッ、おお、おほおおーッ!!」

cha0124 ラミア

「ああ、お尻のバイブ、ぬ、抜いてくれるの……助かつ——おおッ、おほおおおッ!んぐうう、おお、振動してるバイブうう、押しこまれたら……」

cha0125 ラミア

「ああおお、おほーッ、いぐ、いぐうう、お尻の奥でッ、またイグううッ、いはあーッ!! ああッ、あなたああッ、ごめんなさい、私、アナルで連続アクメしひやううッ! んひいひッ、イグ、イグーッ」

cha0126 ラミア

「うう、シヤドウ、この裏切り者、やめて、やめてええ、お尻の奥、感じすぎて、あひいひ、元に戻らなくなっちゃう、んひいひ、ああ、イグ、イグうう、イってるのに、イってイって、いぎううううッ!」

cha0127 ラミア

「ああ、うう……いや、前も後ろも、同時に押しこまないで、おうううう、うう……い  
ううう、ううツ……ああおおお、もう、もうツ、イキすぎてえ、頭、真つ白なの……あ  
あ、ああおおおツ……」

cha0128 ラミア

「んひいい、ああーツ、イグううツ……おまんことお尻で、同時にイグううツ……あ  
はああ、ああツ、二穴イキいい、しひやううううツ、あはあああ、ああーツ！」

cha0129 ラミア

「はひ、はひいい……お尻で、また、いぐうう、こんな……ああ……お尻で、バイブ啞  
えこんれ……アクメつひやうなんて……ああ……ありえないよお……私……よこれひや  
った……ああ……あひ、あひい……」

cha0130 ラミア

「ああ、だめシャドウっ……この裏切り野郎、お尻のバイブをずぼずぼ動かさないで、  
んひいい、あひツ、ぶるぶるしたバイブで、お腹の中、かき回されて、イグ、またイ  
グうう、アナルイキしひやうツ！」

26

cha0131 ラミア

「……ああおおお……あふうツ……ああ、あなた、許して……アナルでよがつてしまう  
ほど、堕ちてしまった、私を許して……おほおおツ……おお……おふうう……」

cha0030 イライザ

「んふふふツ、すっかりお尻でイクのがクセになったみたいね、コードネーム・ラミ  
ア。これぐらいで、いいわよ、シャドウ。やりすぎると、壊れてしまって、売り物にな  
らないものね……」

cha0132 ラミア

「……ああ、ああおツ……イグ、またイグうう……おほおおツ……お……おお……あ  
おお……ッ」

cha0133 ラミア

「ああ、シャドウ……待っていわよ……薬漬けにされているとはいえ……恥ずかしいところを見せてしまつて……あふうう、こうやつてずっと全裸で辱められていると……もう普通の暮らしには戻れなさそう……」

cha0134 ラミア

「大丈夫よ……体調はむしろいいぐらい……ずっと発情しっぱなしで、ああ、んふうう、いやらしいお汁が、あそこから溢れて……ほら、床なんて、ぬれちゃったままだけど……あんツ……心配ないわ……」

cha0135 ラミア

「あんツ、いいの、シャドウ……辱められつくして、薬で快樂調教された、私みたいな女を抱きしめてくれるの……ああ、うれしい……あなたの身体に抱かれているだけで、んうう……感じてしまう……」

cha0136 ラミア

「ええ、ふふ、わかつてるわ……任務も、順調そうね……内偵も進んで、ブラッディ・シャークを裏で操る最高幹部が誰かも、あと少しでわかるのね……頭を潰してしまえば……組織は一気に弱体化するわね……」

cha0137 ラミア

「ブラッディ・シャークみたいに、ボスのカリスマで回っている組織は、なおさらよね……ああ、もうダメ、我慢できない。ねえ、仕事のお話はそれぐらいにして……ねえ、お願い……して……」

cha0138 ラミア

「……調教のせいか、身体が男を欲しがって、疼きが治まらないの……あふう、ねえ、いいでしょ……私の身体をこんな風に変えてしまったのは、あなたよ、シャドウ……ああ、んんツ、もっと強く……抱いて……」

cha0139 ラミア

「(……不倫だとわかっていても、身体がシャドウを求めてしまう……他の男が来たのなら、ここまで欲しがったりしないのに……シャドウの若い身体を見ると、もう気持ちが抑えられない……)」

cha0140 ラミア

「(……もう、夫なんて、あの人なんて、どうでもいい……シャドウに抱かれたい……この若い肉体に抱かれて、私の身体をめちやくちやにもてあそんでほしい……)」

cha0141 ラミア

「ねえ、キスして……いやらしいキスをたっぷり、あなたとしたいの……あふ、んんっ……ちゅば、ちゅ、はふう……だめ、もっと沢山キスして、あふ、ちゅば、ちゅばッ、んちゅちゅッ、ペロも絡めて、あふうう……」

cha0142 ラミア

「ああ、んちゅ、ちゅばッ……あなたの唾液も飲ませて、たっぷりとマーキングして……ちゅ、ちゅばッ、れろろッ、私をあなたの色に染めて、んちゅばッ、ちゅ、ちゅばッ……はふう、んんうッ……ちゅばれろッ……」

28

cha0143 ラミア

「……はふ……ずっと、あなたの唇を味わっていたけど……おちんぼも欲しいの……ねえ、あなたもここ、大きくして準備万端みたいね……男らしくてガチガチで好き……あんっ、今日は後ろでいっぱいして欲しいのよ」

cha0144 ラミア

「おまんこじゃなくて、ほらこっち……お尻のほうへお願い……こうやって、んしよっ、んしよっと、んふふ、動物みたいに、四つん這いになって……ああ、恥ずかしいけど、この格好、興奮しちゃう……♪」

cha0145 ラミア

「さ、お願い。ここよ、私のお尻、バックから思い切り貫いて、いっぱい感じさせて……夫を忘れてしまうぐらい……あなたに犯されたいの……早く……して……」

cha0146 ラミア

「……ああ、じらさないで……恥ずかしい……お尻も丸出しで、こんなはしたない格好のまま、あふ、いやらしい手つきでお尻撫でないで……あふ、あはあッ……お肉のついた尻たぶも撫でられて、んひッ……」

cha0147 ラミア

「はあはあ、お尻撫でられて、無防備なお尻を見られて、恥ずかしい……ほら見て……あなたに拡張された、お尻の孔……ああ、切なくてヒクついてる……あふう……オチンポ、欲しくてたまらないの……」

cha0148 ラミア

「んうう、そうよ、あ……あなたの立派なおチンポ、あふうう、入り口に当たって……ああ、やつと入れてもらえる……ほら中から透明なお汁が溢れて……おちんぼ欲しがってるのわかるわよね……もう限界なの」

cha0149 ラミア

「んはああ……んんッ、おお、んおおおお……やつとあなたのペニスがお尻に入ってきて、すごい……あふッ……ずっと待ってたの……太い熱くて、硬いけど……優しくて……乱暴なバイブとは全然違う……」

cha0150 ラミア

「んおお……おふうう、んんッ、アナルいい、たまらないの、あふ、入れられるだけで、こんなに感じひやうなんて、ああ、ねえ、シャドウ……このまま、いっぱい愛して、お尻で感じさせて……ああ……」

cha0151 ラミア

「あふ、もう、じらさないで……あふ、お尻の入り口……んひ、ずぼずぼして……くふッ……アナルもつと拡がっちゃうよお、んおッ……んうう、んおおお、お尻の孔、カリで広がって、すごい……ッ……」

cha0152 ラミア

「ああお、おふうう……もつと奥も突いて、アナルの中まで、犯し抜いてッ……ああお  
おお、おふうう、そうッ、奥の奥まで、んおおお、おほおお……おちんぽ入つてき  
て、んおおお……犯されてるうう……」

cha0153 ラミア

「ああおおお……おお、んおおッ……おほッ……いい、アナルたまらないのッ、奥まで  
ぶつといチンポが、ごりごり擦つて、おううッ、奥まで叩かれて、お尻、やっぱいい  
い、いいひいいッ、ああ、あはああ……」

~~cha0154 ラミア~~

~~「もつともつとお、お尻してええ、ああおッ……ああ、好き、好きいいッ、私、お尻さ  
れるの好きッ、お尻好きい……ッ、奥の\$字結腸まで、ずばずばつて貫いて、ああお  
ッ、ああ……い、いく、もうッ……」~~

cha0155 ラミア

「ああ、あなたに、大好きなあなたに、お尻を犯されて、ああおお、おほおおッ、  
い、いぐうう、ああ、シヤドウ好きッ、あなたの若いチンポで犯されるお尻セック  
ス、夫とのセックスよりも好きいい！」

cha0156 ラミア

「もう、この気持ち、あひいい、押さえられないの……ああ、してええ、大好きなあな  
たに、あなたのオチンポに、アナルでイカせてーッ、あはああ、もういいの、夫なん  
かよりも、ああ、あなたが好きッ……」

cha0157 ラミア

「あはああ、おお、んおおお、激しい、お尻のピストンします、速くなって……あ  
あ、あなたも私を好いてくれるの……うれしいッ……ああ、イグ、もうアナルでアク  
メ決めちゃうッ……あはああッ……」

cha0158 ラミア

「おほ、おほおッ……いぐうう……あなたも、ほら一緒に、イキましょう……中に精液、いっぱい出して……あはあああ、あなたをお尻にぶちまけてえええーッ！ あはあああ、あーッ、あはあああーッ！」

cha0159 ラミア

「……ああ、熱いの、お腹の中に注がれて……はふうう……下腹のあたりがちやぷちやぷしてる……さんざんアナル調教されたけど……ペニスでされるのは初めて……だから、アナル処女はあなたのものよ……」

cha0160 ラミア

「はあはあッ……また、あおおおお、奥にザーメン注がれて、凄いいい、あふううーッ……ああ、あなたもいっぱい気持ち良くなってくれたのね、うれしい……アナルを捧げることができて、よかったあ……」

cha0161 ラミア

「なあに？ んふふ、まだ、いっぱい私を調教してしまうって話？ いいのよ、謝らなくても。私は、あなたに調教されて、この身体の新しい悦びを教えてもらうことが、今の生きがいなの……」

cha0162 ラミア

「ねえ、私……もっと調教されたい……あなたのために……どこまでも堕ちていきたいの……だからもっと、私をあなた好みのいやらしい女に変えて……お願い……」

cha0163 ラミア

「（ああ、ごめんなさい……私、もう夫のところへ戻れなくなってしまいそう……）」

cha0164 ラミア

「……何しに来たの。こんなに身体の感度を上げて、あふッ、アナルの悦びまで教えて……まだ、私の身体に用があるの……」

cha0031 イライザ

「全裸で、両腕を無様に鎖で吊られた状態だつていうのに、口のへらない女ね。さすがはコードネーム・ラミア。おまんこだって、ぐっしより濡れて、本当はおちんぽのおねだり一つもしたいのよね？」

cha0165 ラミア

「うく……知らないわよ……イライザ、あなたの顔も、裏切り者のシャドウの顔も、見るだけで、うんざりするわよ。もう私の身体は充分仕上がっているんでしょ、どこにでも売り飛ばしなさい……」

cha0032 イライザ

「焦らなくても、今日が最後よ。さあ、この薬を飲んで貰うわね。シャドウ、彼女に飲ませてあげて」

cha0166 ラミア

「うう、好きにきなさい……どうしたのシャドウ、手が震えて……裏切り者、早くしなさい、ほら私に飲ませるのよね、んううッ、んく、んくんくッ、んくんくッ、ぷは、けほ、けほけほッ……あふうう……」

cha0167 ラミア

「……あふ、これ……何の薬なの……ああ、下半身がむずむずしてきて……ううッ……わからないけど、なんだか変よ……ああ、あはああ……」

cha0033 イライザ

「それは後のお楽しみよ。さあ、あなたの身体、今日はどういじめてあげようかしら？前はバイブだったから、今日は趣向を変えて、ローターなんかはどうかしら」



cha0034 イライザ

「この小ぶりの卵型のローター、あなたの下半身の孔にいくつ入るかしら？ んふふ、安心して、ほらこうやって、リモコンでちゃんと震えるのよ、んふふッ。さ、どこまで頑張れるかしらね」

cha0168 ラミア

「う、うそ……何個もあるじゃない……こんなの全部、入るわけが、ああッ、いや、入れないで、んはああああ、ああ、おまんこに、いや、シャドウ、やめなさい、何個も、んうう、あふうう、また入れて……」

cha0169 ラミア

「んうう、ああ、もう入らない……おまんこ、いっぱい……で、あふう……苦しい……んうう、おまんこ、もういっぱいらし……やめて、やめてええ、あぐぐう、奥押されて、ひぐうう、子宮まで、入って……」

cha0035 イライザ

「シャドウは、そのままアナルにもローターを入れてあげて……くすすッ、おまんこには、もっと入るわよね、そらッ、あたしの手で無理矢理入れてあげる、苦しいですよ、でも、頑張つて、そらそらッ」

cha0170 ラミア

「ああおおお、お尻の奥に、んひ、おお、んおお、ローター、またッ、いっぱいローター入って、怖いよお……シャドウ、やめて、お腹張ってきて、苦し……おまんこも、んひい、奥がつつかえて……あぐうう」

cha0036 イライザ

「ほら、ラミア。身体の力抜いて子宮で受けないと、ヴァギナが裂けちゃうわよ。あたしはそれでもいいけど……代わりに組織の人工ヴァギナを代わりに装着してあげる……んふふ、ほら子宮で受けなさい」

cha0171 ラミア

「あぐう、子宮口に、おふうう、ローターもぐつてきて、すごい、あふうう、お尻も限界、はひ、あはあ、おトイレの時みたい、はひい、苦しくって、ローター溢れさせちゃいそう、うぐぐ」

cha0172 ラミア

「あはああああ、前も後ろも、ローターいっぱい、はふうううう、お腹がぱんぱんに張って苦しいい……はひ、ああお、シャドウ、ローターもう入らないい、奥に押しこんじゃ、らめえええ……」

cha0037 イライザ

「んふふ、見た目でもわかるぐらい、お腹ぼっこり膨れて……たつぷりローターを孕んじやったみたいねえ。それじゃあ、ローターのリモコンスイッチ、入れていきましょうか。まずはお尻一個、おまんこ一個ね」

cha0173 ラミア

「んひッ、んひ……いはああああ！ いや、いやああ、やめて、お願い、お願いだからああッ……身体の奥う、ぶるぶるしてえ、いぎい、いひああああ、いぐ……あひ、感じすぎて、いぐうーッ、あーッ！」

cha0038 イライザ

「何よ、まだ何個も入ってるローターの二個だけよ。ほらあ、中にはこんなに沢山、ローター抱えこんでるのに、二個だけでいっちゃうなんて、だめよ。もっと頑張りなさい」

cha0174 ラミア

「はひ、はひ、はひッ、苦し……お願い、ローター止めて……感じすぎて、おかひくなっちゃうし……ああ、あふうう、下半身が変なの、あふ、何、シャドウ、あそこをいっぱい撫でて、あひい、冷たい手で……」

cha0175 ラミア

「あふうう、ローターでぶるぶるして、中から刺激されるのに、あひ、外からも……クリに、はひッ、おまんこの上、刺激しないで……ああ、あふうう……そんなに、されたら……だめ、だめだからああ……」

cha0039 イライザ

「何がダメなの、ラミア？ 太腿を内股にして、ぶるぶる震わせてもしかして、オシッコがしたくなってきたとか？ んふふッ、凶星でしょ」

cha0176 ラミア

「え……どうして……私、何も言っていないのに……」

cha0040 イライザ

「だって、お前が飲んだ薬はね、利尿剤っていつて、おしっこが出やすくなる薬なの。下半身丸出しで冷えているところに、内からローター、外からシャドウが刺激したら……どうなるか、わかるわよね？」

cha0177 ラミア

「……うう、こんなことなら……飲まなければよかった……ここまでの屈辱を受けるなんて……絶対に、私……おしっこなんてしないから……シャドウの前で、ああ、失禁なんて、いや……」

cha0041 イライザ

「でも、限界なんですよ。ほら、シャドウ、もつと下腹部をマッサージしてあげて。特にオシッコの出る、尿道のあたりをねえ……んふふふッ」

cha0178 ラミア

「ああ、あはああ、いや、本当にいや、お、オシッコだけは……ああ、お漏らしを見られてしまうなんて、耐えられない……ねえ、いや、なの……本当にいや……うう、ううッ、いやあああああーッ……」

cha0179 ラミア

「はひッ、苦しい、もう限界……だけど、たとえ膀胱が裂けても、耐えて見せる……うくう、ねえ、シャドウ、どうして笑ってるの……え、それって……ローターのスイッチ、い、入れちゃ、だ、だめッ!!」

cha0180 ラミア

「んいーッ!! お腹全部がぶるぶるしてええ、あひい、ああ、お尻でもおまんこでも、おほおほ、ローターが暴れて……ううう、もうもうッ、我慢しきれないの、おううーッ」

cha0181 ラミア

「……あぐぐうう、イグう、イグイグイグうう、やはああああーッ! あ……ああ……あああああ、ああ……イキながら……身体力が抜けて……あはあ……あはあ……あはあ……ッ」

cha0182 ラミア

「お、おしっこ……お漏らし……しひやって……あああ、もう、だめ、止められない、あああ……気持ち……いい……おしっこ、出すの、あふううう……最高……あああ……」

cha0183 ラミア

「んひい、あひい、イキながらああ、オシッコでるの止まらない……はあああ、シャドウにも、イライザにまで見られて、はしたなく、お漏らしして……あああ、見られて、恥ずかしい……」

cha0184 ラミア

「ああああ、恥ずかしいのに、感じちゃって、あひい、んひ、んひい、おしっこいられて、いぐ、いぐうう、ああああッ、ああッ、ああおッ! おうううッ!」

cha0185 ラミア

「いや、いやあ、いつてええ、いつぱい入ったローター、排泄しひやうう、ああ、な  
んで、こんなああ、まるでローター、いやらしく産卵してるみたいなお、あああゝ  
ッ、ああおお、おほおおゝッ！」

cha0042 イライザ

「んふふふ、あはははははッ、コードネーム・ラミア。最高の潜入捜査官と言われ  
たお前が、お漏らしにローター産卵ッ、最高に素晴らしいショーを見せてもらった  
わ」

cha0186 ラミア

「……はひ……はひいい……いい、あひいい……オシッコ、気持ちよかったあ……ああ  
あ……もつともつと……恥ずかしいことさせて……ラミアをいつぱい辱めてえ……あは  
……ああああ……あへえ……ええ……」

cha0043 イライザ

「この様子は動画にも収めてある。組織のおエラ方もさぞ満足するわねえ。よくやつ  
たわよ、シャドウ。これからあたしの右腕として、ますます活躍してもらおうわよ」

cha0187 ラミア

「（……シャドウ……目の前で失禁までさせるなんて……任務のためとはいえ、ひどい……でも、私も感じてしまつて……あなたの手で、すっかり露出マゾに変えられたみたいね……あ、シャドウが来たわね……）」

cha0188 ラミア

「ねえ、シャドウ。あんなことまでするなんて……私、あなたの手で普通のセックスのできない身体に変えられてしまったのよ……」

cha0189 ラミア

「お尻も、あふうう、いっぱい開発されて、あなたのデカチンがも全部飲み込めるようになってしまつてるのよ……もう、夫とのセックスでなんて満足できない……あなたがこんな身体に変えてしまったのよ」

cha0190 ラミア

「え、ああ、そうね……任務の話ね。組織の全容も掴んで……あふ……あと少してブラッディ・シャークを壊滅させられるのね……よかった……あふ、ねえ、お仕事の話は、もういいから、早く可愛がつて……」

cha0191 ラミア

「ほら、おまんこ、アナルもあなたを欲しがって、だらしなく開ききつてるの。このまま横になってしまうから、あなたのおちんぼ頂戴、さあ、お願い……」

cha0192 ラミア

「股を開いて、入れやすいように、足を上げて、あなたの肩に乗せてしまうから……ほら、おまんこアナル、交互にいっぱい突いて……もう夫のものではだめ、あなたののではないと感じられないの、あはあああ！」

cha0193 ラミア

「いきなり、アナルに来て……おほ、おほおッ！ あおおお、あおおッ、んおお、おおッ、奥までいっぱいずばずばされて、イグの、イグうう、あふ、いきなり軽くアクメっひやうう、おほおおーッ！」

cha0194 ラミア

「んひいい、あはあああ、あんッ、今度はおまんこッ、ああッ、ああああッ、いっぱいピストン凄いいい、んふうう、感じすぎてお汁が溢れすぎひやううう、あはああ、ああッ、ストロークも深くて、最高ッ！」

cha0195 ラミア

「あはあああ、おまんこも、ああ、イクううッ……あなたのチンポ専用になっひやッッ、あはんッ……少しのピストンで即イクッ、しひやううう、ああッ、あはああああッ、あーッ、あーッ！」

cha0196 ラミア

「んひ、おほおお、今度のアナルッ、おまんこイったばかりで、アナルされるの、ああ、いい、いいのおお、おほ、おほおお、今度は奥うう、いっぱい突かれて、あおお、お尻でされてるのに、おお、んおおッ！」

cha0197 ラミア

「子宮まで、あなたのおちんぼが響いて、おううッ、感じひやううーッ、あおおッ、おほお、おおおお、ふおおおーッ！ また、いぐ、いぐぐ、アクメっひやうう、ああ——んひ、ああ……抜いてしまうの……」

cha0198 ラミア

「お尻、イキそうらったのに抜かれて……今度はまた、おまんこ、あはあ、あはんッ、ひぐうう、奥うう、ひぎいいッ、いっぱいガン突きされて、はひいい、気持ち良すぎて、あへええ、あへええッ！」

cha0199 ラミア

「はひ、またアナル、おおッ、おううう、凄いいい、腸壁が擦られて、おトイレの気持ちよさが、ずっと続いているうう、あおおお、おお、おほおおーッ！ あぐうう、またおまんこ、あん、ああんッ、あはあッ！」

cha0200 ラミア

「はひ、お尻とおまんこ、交互に責められると、どっちもよくなって、はひいい、でもイケないの、イキそうで、んおおお、あはあああ、イキたいのに、イケないのずっと続いて、頭蕩けて、おかひくなるーッ！」

cha0201 ラミア

「ねえ、イカせてえ、どっちでもいいから、私をイカせて、あはあああ、どっちか決めて、あはあああ、イカせて……でないと、私、じらされすぎて、わけわかんなくなっちゃうーッ、あーッ！」

cha0202 ラミア

「あん、あああッ、おまんこで、ああ、イカせてくれるの……ああ、お願い……シヤドウの精液、中にたっぷり注ぎこんでほしいの……子宮まで、ザーメンまみれにして、いっぱい突いて、子作りセックスしてッ！」

cha0203 ラミア

「ひぐ、ひぐうう、そうッ、奥ッ、赤ちゃんの出てくるところ、子宮の入り口、いっぱい突いて、ひぎい、あひいいッ、もう、もうッ、いぐううう、おまんこで、ああ、やっといかせて……もらえる……」

cha0204 ラミア

「あはああ、あなたの精液、遠慮なく、私に出して……子宮に直接、熱々ザーメン、いっぱい頂戴ッ。あひいい、子作りセックスッ、夫がいるのに、別の男と子作り不倫セックスうう、感じひやうううッ……！」



cha0205 ラミア

「ひうううッ、子宮におちんぼ潜りこんできて、ひいい、夫とのセックスでこんなこと絶対なかった、んひいいッ、ああ、子宮口ずばずばされて、拡げられてりゅううう、ああああッ！」

cha0206 ラミア

「あと少しで、おちんぼ射精、子宮に直接中出し射精ッ、されひやうううッ。ああ、好き、あなたのことが好きよ。ああッ、して、早くだしてッ！」

cha0207 ラミア

「子宮に、いっぱいして、ラブ不倫ザーメン、いっぱい子宮に、ぶちまけてえッ。ああああッ。子宮の奥まで、あぐぐううう……おちんぼもぐって、ビクビクして、ひひひひ……あうう……うう……」

cha0208 ラミア

「ああ、イクうう、私、イってしまう、あなたも一緒にッ……ああああ、もうイグのッ、イグイグイグうう、子宮貫かれてッ、不倫セックスで、イグううううッ、やはああああーッ!!」

cha0209 ラミア

「ああああああ……はひ、はひひい、いった子宮に、いっぱいザーメン注がれて、ああああ、お腹熱いのでいっぱいになって、全身蕩けひやいそうらのおお、ああああ……ああ……」

cha0210 ラミア

「……ああ、これ、完全に妊娠しひやってる……無防備な絶頂後の子宮に、いっぱい種付け射精されて、ああああ、ああああ……んひ、んひひい……あなたの子供、孕んじやつてるよお……」

cha0211 ラミア

「もう、夫とは別れるからあ……ああ、あなたの子供産ませて……それで、もついっぱい快樂調教して……あなたのおちんぼのこと以外、何も考えられなくてもいいからああ……あひひい、あへええ……」

cha0212 ラミア

「んおお、ああおお、また中出し、ああああ、されて、イグううッ……あああ、ああッ……また妊娠確率、上がっちゃったああ、んんッ、あふっうう、またあ、中出したっぷりいい、ああ、うれしい♪」

cha0213 ラミア

「んはああ、んん、ああああ……いっばい出されて、ああ、絶対に妊娠してしまうわね……もつと出して、精液でたっぷりマーキングして、あなただけの女にしてッ……」

cha0214 ラミア

「ああっ、もう夫なんていない、あなたが夫なの……ッ！」

cha004 イライザ

「……んふふふ、随分仲がいいみたいね、シャドウ、ラミア。なによ、二人とも、驚いた顔をして？ ほら、そのままラブラブセックスを続けなさい……やっぱり、このあたしを騙していたのねえ……」

＝ 【メモ】調教部屋（シャドウ、ラミア、イライザ）

cha0215 ラミア

「……うう、こんな……最後の最後で……イライザにバレてしまうなんて……悔しい……お前を殺して、私も死ぬ……！」

cha0045 イライザ

「ラミア、待ちなさい！ 冷静になって、これをよく見なさい。わかるかしら。あなたたちと同じ国家特別捜査官の証明書よ。そうよ、私もブラッディ・シャークに、以前から潜入していたの……もちろん極秘裏にね」

cha0046 イライザ

「そこにあなたたちが潜入してきたから、あたしのほうから、あなたたちを利用したの。組織の信頼を得て上層部へ食い込み、さらなる情報を得るために。結果、組織の名簿とトップを初めとする幹部の顔を確認できた」

cha0216 ラミア

「……じゃあ、ブラッディ・シャークは——」

cha0047 イライザ

「ええあなたたちのお陰で、壊滅させることができそうよ。資金源、主要幹部や構成員、金の流れまで掴むことができたの。そのためにあたしも組織の金庫番と何度も寝たけどね……とんだ変態野郎だったわ」

cha0048 イライザ

「今回は、あなたたちの力が大きいわ。なんせ、ラミア、あなたの身体や、快樂調教のされっぷりに、組織のボスがご執心だったみたいだから、んふ」

cha0217 ラミア

「……ああ、よかった……このままシャドウと、離ればなれになってしまふかと思ったもの……ああ、あなたのことが大好きよ……もう一生離さない……ああ、好き、好き、愛してる……」

cha0049 イライザ

「結果的に二人のキューピッドになれてよかったのかしら。ラミア、あなたには、少々歪んだ性癖を植えつけてしまったみたいだけど、それは許してね……」

cha0050 イライザ

「それじゃ、お二人の甘い時間を邪魔するのは野暮みたい。一時間後に、また来るわ。……」

cha0218 ラミア

「ええ、イライザ、ありがとう……行ってしまったわね……でも、驚いた……イライザも潜入捜査官だったなんて……ねえ、シャドウはわかったの？」

cha0219 ラミア

「んふ、そうよね……わからないわよね……冷酷な仕打ちに、私だって心の底から憎んでしまうほどだったものね……」

cha0220 ラミア

「それじゃ、あと一時間、たつぷりエッチなことしましょう？ まだ、ほら、私の中に、あふうう、あなたのおちんぼ入ったままなのよ、んうう、あん……話してる間にも、また大きくなって、節操ないのね」

cha0221 ラミア

「ほら、あああッ、あはああ、動いて、あふうう、中出したザーメンを擦りつけるみたいに、私の中、いっぱいかき回して、ああ、あああッ、あはああああーッ！」

cha0222 ラミア

「んうう、あふうう、ねえ、帰ったら、今度はアナルもたつぷり愛してほしいの……中にも、たくさん出してね……おまんこだけじゃ、寂しいもの、ああ、あはあああッ……」

cha023 ラミア

「お尻でも、すぐにあなたを受けいられるよう、極太パイプを咥えて、しっかり拵けておくわ♪ だって、あなたが私をこんな淫らな女にしまったのよ、お尻におちんぽを欲しがってしまいう女にね」

cha024 ラミア

「夫のいる人妻を快樂調教してしまったんだもの、その責任はちゃんと取ってもらわよ。私もお返しに、あなたにもっと淫らに調教されて、あなただけの専用エロ奴隷になつてあげるから、んふふふ……」